

1 ねらい

6年生の子どもたちは、これまでに生活科の授業で自然遊びや学区探検をし、総合的な学習の時間で河川の調査や学区の工場見学をし、自然豊かな六ツ美中部小の学区の良さを学んできた。そのため、学区を緑に恵まれた住み良い環境ととらえている子どもが多い。しかし、持続発展可能な「豊かな未来」を考えたとき、今のままの生活を続けることが、良いわけではない。中部小学区にとって、残していきたいことや良くしていくべきことがある。そのことに気付くためには、学区に住んだり関わったりしている様々な人の考えを聞き、自分自身の考えをもつことが必要である。また、「豊かさ」とは何かを考えたとき、物質の量、自然環境、社会環境、人や文化などがあると知ることによって、多面的にもものを見る力や総合的に考える力が身につくであろう。それらを踏まえて、中部小学区の豊かな未来について考えられる子どもを育てたい。

2 実践の概要

(1) 未来の六ツ美はどうなってほしい？

4月、5年生までに学習したことも踏まえ、未来の六ツ美がどうなってほしいか尋ねた。多くの子が「田畑や自然はそのまま残っていてほしい。」と答えた。一方、「中部小学区にはない大型の病院やショッピングセンターができて便利になってほしい。」「人口が増えてほしい。」という意見も多くあった。「自然と便利さ、どちらもあがる学区になってほしい」と考える子もいた。互いの意見を聞き合う時間を設けると、田畑を守る意見をもつ子は、便利な建物が増えることで、田畑や自然が無くなってしまう心配をする子もいた。そこで、学区の地図を配布し、未来の都市計画図を考えることにした。田畑や家、工場、店など、色を分けて塗り、自分がどんな学区にしたいかを具体的に想像できるようにした。理由もつけて都市計画を作るようにすると、「お年寄りが多い学区だからやはり病院があった方が安心。」と、それぞれの思いが感じられた。



都市計画の地図

(2) 地域に関わるいろいろな立場の人に聞いてみよう

それぞれ六ツ美の未来への思いを確認した後、いろいろな立場の人から話を聞く機会を設けた。

1 市の環境課の方から学ぶ会

市の環境課の職員であり、保護者でもある方に来ていただいた。市の職員として岡崎市の土地利用について、また市と比べた六ツ美の土地利用についても話をいただいた。六ツ美地区が調整区域として田畑・工場が守られていることを教えてもらい、驚く様子の子が多かった。そこで、もしも調整区域に関係なく、学区に自動車工場のテストコースが建てられることになったらどうするかディベート形式で話し合い



ディベートの様子

も行った。反対する子が多かった中、工場ができると金銭的に豊かになるよと揺さぶられると、六ツ美に。てより良いのはどちらか迷う子も出てきた。

2 JAで働く方から学ぶ会

「学区にとって、工場が増えることも良いかもしれない」と思う子が出てきたところで、今度はJAで働く方から、話を聞く機会を設けた。日本の食糧自給率の低さやそれに伴う食の安全への懸念など、また新しい話を聞くことができた。また、学区の田畑の発展のために活躍した昔の人々の話も聞き、改めて学区の田畑やお米を大事にしていかなければならないと考えを深める子もいた。



JAの方から話を聞く様子

3 六ツ美商工会の会長さんから学ぶ会



毎年子どもたちも楽しみにしている商工会まつりを実行している商工会の会長さんからも話を聞く機会を設けた。商工会が店の人たちで、六ツ美を盛り上げていく活動していることを教えていただき、未来を担う6年生に後のことを考えながら生きていくESDの考え方についても具体的な話を聞くことができた。最後に会長さんが六ツ美を発展させ、盛り上げていくための計画を少しだけ教

えてもらえ、**商工会長さんから話を聞く様子**しかし、子どもたちがこれまでに学習し、良さと感じてきた六ツ美のイメージと少しずれがあり、感想にはもっと別のものや方法で六ツ美の良さをアピールすべきだと感じる子が多かった。では、何が六ツ美をアピールしていくために良いのか、どのような方法で周りの人にアピールしていくのか、これを具体的に考えることでより自分事として学習が深まるのではないかと感じられる機会となった。

4 六ツ美の歴史を知る学区の方から学ぶ会

ゲストティーチャーの最後に、学区の歴史を知る方から六ツ美の歴史について話を聞いた。これまで、学区についてたくさん学んできた子どもたちだが、昔この辺りが海だったことや町名にその名残があることなどを教えていただき、初めて知ることに驚いた様子を見せた。貴重な昔の資料も見せていただき、話が終わった後にも資料を見ながら質問する子どももいた。また、田畑が有名になった経緯や田んぼに関するお祭りについても教えていただいた。これまでは、工業・農業・商業について話を聞いてきたが、学区の方からその歴史を聞くことで、改めて人のつながりや伝統・文化の良さに気付く子も出てきた。



3 実践を振り返って

学区に住んだり関わったりする人たちからたくさん話を聞いたことで、自分の考えを広げ、多面的に考えることができる子が増えた。これまで良さだけを感じ、これからの学区の未来に大切にしていけるべきことが何かを考えるきっかけとなった。答えを迷う子もまだ多い。3学期は、この実践を基に、先のことを考え、自ら行動・発信する子を育てたい。